

体と心の性が一致しない性同一性障害(GID)に悩む小中高生が全国で少なくとも約六百人いることが、昨年の文部科学省の調査で明らかになった。自分の子どもがGIDと分かったら、親はどう向き合えばよいのか。GID学会理事長で産婦人科医の中塚幹也・岡山大医学部教授(写真)に聞いた。

(山本真嗣)



中塚幹也さん

「体と心の性が一致しない」とはどういふことですか。自分の体の性に強い違和感があり、体は男性だが、認識するのですか。

五~六割は小学校入学前

性同一性障害と分かつたら

本人の話聞いてあげて

自分は女性と思う、または体は女性だが、男性として生きたいというように性の自己認識が体と食い違っている状態です。日本精神神経学会の調査では全国で一万八千人が医療機関で受診していると推定していますが、未受診者も含めるとその何倍もいると思います。「なぜ食い違うのでしょうか。何らかの原因で、体とは別の方向へ脳の性分化が起つたと考えられています。が、理由は分かっています。育て方が悪かったと悩

うか。



性同一性障害など性的マイノリティについて、子ども向けに分かりやすく解説したポスター。教育系出版社が全国の学校に配布している岡山市の大大学院保健学研究科で

に違和感を覚え、中学生までに九割以上が自覚しています。学校は制服や水着、トイレ、行事など男女を分けて行なうことが幼児期に比べ格段に増えます。また、見せたりしない。体の性とは異なる行動や態度が見ら

をするのも一つの方法。少なくとも、マイノリティーに対し、普段から偏見のある言葉を発したり、態度を見せたりしない。体の性とが強まり、つらさが増して

消失することも少なくありません。本人が困っているればすぐに受診する必要はないと思います。

ただ、二次性徴で違和感が強まり、つらさが増していくようならばGIDの可能性が高い。精神科を受診して自殺やうつなど二次的な精神疾患を予防することも選択肢の一つ。望まない性への体の変化を一時的に抑える治療も二〇一二年から可能になりました。いずれの場合もジェンダークリニックなどの専門の医療機関に相談してください。

小学校高学年から中学入学にかけては二次性徴で男の子はひげが生え、声が変わり、男性らしく、女の子は胸の膨らみや月経が始まることもあります。そのたびにつらさを感じ、自殺を考える子どもも少なくありません。変だと思われるのは、いじめられるのではなく隠れています。周囲が気付かな

れても、頭(?)なしに「男らしく」「女らしく」と叱らず、見守りましょう。

まずは、正しい知識を持つこと。親が受け入れられずに、精神療法や教育などで無理に心を体の性に合わせるとすると、うつや自殺

が増えることが知られています。何がつらいのか、本人の話を聞いてあげて。学校生活に関する事であります。何がつらいのか、本人も相談しやすい環境をつく

ります。何がつらいのか、本人の話を聞いてあげて。学校生活に関する事であります。何がつらいのか、本人も相談しやすい環境をつく

ます。何がつらいのか、本人の話を聞いてあげて。学校生活に関する事であります。何がつらいのか、本人も相談しやすい環境をつく

ます。何がつらいのか、本人の話を聞いてあげて。学校生活に関する事であります。何がつらいのか、本人も相談しやすい環境をつく

ます。何がつらいのか、本人の話を聞いてあげて。学校生活に関する事であります。何がつらいのか、本人も相談しやすい環境をつく